

◆教員養成の教育の質の向上に関わる取り組み

□教員養成に関する質の向上の取り組み

21世紀ではさらに、グローバル化、情報科、超高齢社会化等が急激に進み、これまでにない新たな教育課題が生まれてくる。そうした課題に対して柔軟に対応していくためには、教員の資質能力の質の向上を図る必要がある。そのために本学としてはこれまでに教職課程の質の向上のために、次のような取り組みを行ってきた。

(1) 教職課程の組織の検討

教職課程の運営、カリキュラムの検討、各学科の専門教育との連携、諸問題への対応の中心を担っているのが教職課程運営委員会である。そして教職課程の自己点検・評価についての検討ならびに改善の提言等を行うための組織として教職課程自己点検委員会を設置している。

(2) 附属学校、横浜市等の教育委員会との連携

本学には附属の中学校・高等学校が設置されており、教職実践演習での授業見学、教育実習の受け入れ、附属学校の教師による授業などの連携を行っている。学生が教育現場への理解を深めるための場になっている。また、本学は横浜市と連携協働の協定を結んでいることもあり、講師の相互派遣等の活動を行うことを通して、教育現場への理解を深める機会としてきている。

(3) 教職年報ならびにHPによる発信

教職課程の充実を図るために、2016年度より「鶴見大学教職課程年報(以下「教職年報」)」を作成している。教職年報では、教員が教職に関しての研究や実践について発信するだけでなく、学生が教育実習や介護等体験、授業への取り組み等についての振り返りを載せている。教職課程の記録としても重要な役割を担っている。

(4) 相談活動

本学は小規模なため、教職課程を履修している学生と身近に接することができる環境にある。そのため、授業の中での学生の様子をもとに声をかけたり、進路に向けての相談に応じたりすることを日常的に行っている。こうした相談活動を通して学生の教職への希望を実現すると同時に、他の進路への変更についてもより良い方向に進めるように支援している。

(5) 教職アドバイザー

教職アドバイザーとして、公立学校の校長経験者に担当してもらっている。相談活動だけでなく、教員採用試験対策、授業での講話など教職課程の充実を図っている。新型コロナ前までは、教員採用試験対策のために、面接練習、場面指導等での指導等を行ってもらった。2022年度については、相談活動と教員採用試験に向けての書類の書き方、面接練習等の取り組みを行った。

(6) ポートフォリオの作成と発表

4年次の教職実践演習において、これまでの教職を中心とした大学での学びや体験を凝縮ポ

ートフォリオとしてまとめることで、教職への資質能力の向上を図っている。そのために、1年～4年まで、毎年の学びや体験を履修カルテやポートフォリオの資料として積み重ねてきている。4年間の教職課程のまとめとして、ポートフォリオを作成することを通して、教職への希望をより現実的なものにすると同時に、自己理解を図ることを考えている。